

# 平成27年度 当初予算事業の概要説明書

(兼評価説明書)

1 頁

## 1. 事務事業の概要

完了  評価対象  行計対象

事務事業名 (中事業)	22213 西脇エコポイント制度事業			
基本政策	06 持続可能な循環型社会を築き、人と自然が共生するまち			
政策	03 地球環境の保全に貢献するまちづくり			
施策	01 地球環境保全対策の推進			
実施形態	直営			
事業期間	単年度	平成26年度～		
要求区分	新規	予算区分	政策	
事業の実施を市に義務づける国の法令				
有無	なし			
法令名				
予算科目	01-040105-080100			
部名	24 暮らし安心部	課名	04 環境課	
課長名	藤井 敬也	T E L	内線	393

## 2. 対象・目的・内容

事業概要	環境行動の成果をエコポイントという形で実感できる仕組みをつくることにより、より多くの市民が環境行動に取り組むよう誘導する。
事業の対象 (誰・何を)	全市民
事業の目的 (どういう状態にするために)	市民の環境行動を促すとともに、市民の環境意識を醸成し、環境にやさしい自立・循環型社会の実現に寄与する。
事業の内容 (どういう内容を行うのか)	取り組んだ環境行動に対して、エコポイント券を付与し、市民は一定の累積ポイントごとに、環境商品が当たる抽選に参加できる。

## 3. 年度別事業費

(単位：千円)

	事業費	事業費の内訳						
		国庫支出金	県支出金	地方債	分担金負担金	使用料手数料	その他	一般財源
平成24年度決算額	0	-	-	-	-	-	-	-
平成25年度決算額	0	-	-	-	-	-	-	-
平成26年度決算額	488	0	0	0	0	0	488	0
平成27年度予算額	509	0	0	0	0	0	509	0

## 4. 総コストの概算

(単位：千円)

平成26年度のこの事業に従事している職員数		従事職員数	人件費(A)	平成26年度決算額(B)	総コスト(A)+(B)
一般職員	嘱託・臨時職員				
0.10	0.00	0.10	780	0	780
事業費の主な用途		報償費			

平成27年度 当初予算事業の概要説明書  
(兼評価説明書)

5. 事業の実績・目標

活動 指標 ①	指標名	エコポイントの対象となる「環境行動」数			単位	個
	説明や数式	電気使用量前年同月比削減、緑のカーテン実施、環境イベントへの参加など				
	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	目標値			23	24	
	実績値		24			
	経費(千円) 単位当たりのコスト		1,268 52.83			
活動 指標 ②	指標名	エコポイントを配布した環境イベント数			単位	回
	説明や数式	27年度からは、ごみ分別説明会(ステーションパトロール)の機会にも配布する。				
	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	目標値			100	100	
	実績値		20			
	経費(千円) 単位当たりのコスト		1,268 63.4			
成果 指標 ①	指標名	エコポイント発行済ポイント数			単位	ポイント
	説明や数式	発行済ポイント数=1ポイント券×発行枚数+5ポイント券×発行枚数+10ポイント券×発行枚数				
	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	目標値			12,000	13,000	
	実績値		11,058			
	経費(千円) 単位当たりのコスト		1,268 0.11			
成果 指標 ②	指標名				単位	
	説明や数式					
	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	目標値					
	実績値					
	経費(千円) 単位当たりのコスト					
実績・成果 等の説明	環境を意識した行動をエコポイント数で評価した。象メニューは27年度は1つ減った(「環境ポスターコンクールへの応募」が2年に1回で平成27年度は実施しない。平成28年度は当初の24以上に戻す予定)。しかし、ポイントを配布するイベントを増やし周知を図る。制度のPRとともに、対象行動の発行ポイント数も見直し、環境にやさしい行動へのきっかけづくりを進め、環境への取組が実感できる機会を増やす。また、平成27年度から健康ポイントが始まることもあり、相乗効果を目指す。					

6. 評価

1 次 評 価	評価 ポイント	事業の優先度(緊急性)	4	事業の必要性	3	実施主体の妥当性	5
		直接のサービスの相手方	5	受益者負担の適切さ	5	市民ニーズの把握	5
	事業の 総合評価	継続実施					
	説明	環境への負荷が少ない自立・循環型のまちづくりを進め、ライフスタイルをエコ・低炭素型に変えていくため、引き続き実施する必要がある。					
2 次 評 価	評価 ポイント	事業の優先度(緊急性)	3	事業の必要性	1	実施主体の妥当性	4
		直接のサービスの相手方	1	受益者負担の適切さ	5	市民ニーズの把握	3
	事業の 総合評価	改善・見直し					
	説明	どのような成果があったのかを検証する必要があるため、成果指標としてポイントの発行数があげてあるが、それに加えて人数(延べ人数でも可)も設定し3年間の推移を検証材料にするとともに、制度の周知も不十分であり、もう少しPRの必要があると考える。現行のチラシでは「ポイントを貯めたら抽選会に参加できる」ことはわかるが、「どんな景品が、どのくらいの数当たるのか」はわからない。エコポイントの抽選による景品の内容やPR方法にも工夫をし、やる気を喚起させるような改善が必要である。					